

開講年度	令和 8 年度	開講課程	博士課程
授業名	生命薬学特別研究		
開講キャンパス	伏虎	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1 ～ 4 年次
必修・選択の別	選択	単位	1 4 単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(病態解析学) 病態解析 (生物化学) 遺伝情報発現調節 (分子生物薬学) 摂食・代謝 (生体機能解析学) 中枢神経、慢性疾患 (衛生薬学) 代謝酵素		
担当教員 (下線：科目責任者)	医		
	薬	(病態解析学) 教授 長野一也、講師 山下琢矢、助教 堤峻太郎 (生物化学) 教授 長田茂宏 (分子生物薬学) 教授 三宅 歩 (生体機能解析学) 教授 那波宏之、准教授 木口倫一、講師 難波寿明 (衛生薬学) 准教授 佐能正剛	
授業の概要	「未病の段階からの病態解析」、「遺伝情報発現」、「摂食・代謝」、「中枢神経系疾患」、「代謝酵素」を中心とした生命現象に関わる薬学研究領域において、課題を設定し、専門的知識・技術を活用しながら研究活動を行う。		
到達目標	(病態解析学) 「物質」と「生体応答」を紐づける体内動態を基盤に、疾患にとどまらず、未病の段階から総合的に理解・介入するための問題を発掘し、解決できる。 (生物化学) 遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する課題について、専門的知識・技術を活用しながら解決する能力を修得する。 (分子生物薬学) 研究室で行う実験を通じて、研究計画の立案方法、実験技術、データ整理の方法。問題解決能力などの修得をめざす。 (生体機能解析学) 中枢神経系の機能異常に基づく慢性疾患の分子基盤について、神経生理学、神経薬理学、分子神経科学的な手法を用いて研究を実践することができる。 (衛生薬学) 代謝酵素の発現調節機構や生理機能、疾患や副作用との関連性を見極めるための実験手法や問題解決能力を修得し実践できる。		

授業計画	<p>(病態解析学) 体内動態を基盤とした未病・疾患の理解と制御に関する研究を指導する。(長野一也/山下琢矢/堤峻太郎)</p> <p>(生物化学) 遺伝子発現調節、再生・がん化、毒性評価に関する研究を指導する。(長田茂宏)</p> <p>(分子生物薬学) 下記の研究を指導する。(三宅 歩) 1. 摂食行動の制御機構に関する研究 2. 病態代謝の分子機構に関する研究 3. 形態形成の分子機構に関する研究</p> <p>(生体機能解析学) 中枢神経系の機能異常に基づく慢性疾患の分子基盤解明に関する研究を指導する。(那波宏之/木口倫一/難波寿明)</p> <p>(衛生薬学) 代謝酵素の発現調節機構や生理機能、疾患や副作用との関連性に関する研究を指導する。(佐能正剛)</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100% (研究課題の設定内容、研究の遂行状況) によりS (90点以上)、A (80～89点)、B (70～79点)、C (60～69点)、D (59点以下) の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー (学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。
教科書・参考書	特に指定しない。